

大学地域連携の事例から①  
京都駅ビル東広場での「憩いの場」の提案、②「  
祥栄の森再生プロジェクト」への提案、③  
淀川河川公園遊具デザインの取り組み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学美術学部 公開日: 2020-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤本, 英子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15014/0000000300">https://doi.org/10.15014/0000000300</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



## 大学地域連携の事例から

- ① 京都駅ビル東広場での「憩いの場」の提案、②「祥栄の森再生プロジェクト」への提案、③ 淀川河川公園遊具デザインの取り組み

### Some Examples of University-Community Cooperation

1. A Proposal for “Iko no Ba” (a Recreational Place) in the Eastern Square of Kyoto Station Building; 2. A Proposal for the “Restoration Project of Shoei no Mori (Shoei Green Space)”; 3. Designing Playground Equipment in Yodogawa Riverside Park

Hideko Fujimoto 藤本 英子

#### 1、大学地域連携に期待されるもの

近年、大学に産学連携案件の相談が多く持ち込まれる。これまでも京都市の事業への協力として、「東山花灯路」「駅ナカアート」事業には、環境デザインとして毎年参画し取り組んできたが、民間事業者からも案件が持ち込まれるケースが増加してきている。環境デザインでは教育の上で現場感覚や、地域から学ぶことを重視しているため、積極的に連携に取り組んでいる。またそのことで、単に教師のみが関わり評価する授業から、相手のいる中での提案と評価を得ることができる授業へと、学生たちの学びを深める成果が上がっていると感じる。本年度環境デザインで取り組んだ4つの事例から3つを以下紹介する。



京都駅ビル現場調査にて

#### 2、①京都駅ビル東広場での「憩いの場」の提案から

本学移転先の崇仁地域への提案を、ここ数年続けてきたが、本年は崇仁地域への外部からの重要な玄関口となる京都駅について、京都駅ビル開発（株）より、あまり活用されていない駅ビル内東広場への提案が大学に求められた。環境デザイン専攻では、7月8日より29日まで、デザイン科2年生デザイン基礎授業として取り組んだ。

初日は現地調査と依頼主へのヒアリングを行った。京都駅ビル開発では、国際文化観光都市の玄関口である京都駅ビルを「文化・芸術の香りが滲み出る駅ビル」を目指したりニューアルを検討されていた。会社側では東広場が活用されていないとの課題と、会社によるアンケートで明らかになった駅ビルでの「憩いの場」不足という課題が伝えられた。2年生30名にそれぞれフリーに現状の課題などから、その解決案をプレゼンテーションさせ、近い案のメンバーでグルーピングを行なった。その後、グ



京都駅ビル東広場の現状

ループで提案に取り組み、最終29日には依頼主も引き5班による個性的な提案が行われた。提案は依頼主から大変好評で、今後のリニューアル計画への活用が期待される。

### 3、②「祥栄の森再生プロジェクト」への提案から

大学に京都市立の祥栄小学校校長先生より相談が持ち込まれた。赴任された小学校に「祥栄の森」という魅力的な緑地があるが活用されておらず、この活用に案が欲しいとの相談だ。環境デザインでは、デザイン基礎1年生の課題として、11月29日に小学校を訪問、校長先生の想いをうかがい、長年放置されている緑の空間を見学した。当初機能していたであろう水の循環システムと壊れた水車、放置された池、1匹だけの兎小屋などを確認した。校長先生からこの地区の小学生には、ホッとできる緑の空間がとても重要であると聞く。学生たちの脳裏にも、現場の残念な様子が焼きついた。この課題でも、初めは個人提案をプレゼンテーションさせ、提案の近い学生でグルーピングを行い5チームを作成した。その後グ



祥栄の森の現在



小学生を前に工夫したプレゼンテーションの実施



祥栄小学校でのプレゼンテーション1



祥栄小学校でのプレゼンテーション2

ループで検討を進め、最終日小学校に赴き、5年生70名の前で最終プレゼンテーションを行なった。この庭は来年度から見直しの予算が取られている、そこで活躍するのは来年度6年生となる現5年生である。最終日のプレゼンテーションでは、小学生たちに質問、意見を求めた。1時間以上のプレゼンテーションにも関わらず、小学生たちは熱心に聞き入ってくれて、意見や質問も多く出された。先生方に何うと、日常授業に集中できなかつたり、課題を抱えた児童たちも、驚くほど集中し、積極的に発言していたという。1匹だけ飼われている兎の行方に質問が集中したり、「森」の概念の差に小学生が切り込んだりと、本学生徒にも大変真剣な回答が求められる会となった。提案パネル及びモデルは小学校の共有教室に展示され、その後全児童や地域の市民に公開されることになった。来年からのリニューアルで、提案が効果を上げることを願っている。

### 4、③淀川河川公園遊具デザインの取り組みから

淀川は国が管理し、京都、大阪を結ぶ重要な河川である。河口から三川合流地点まで37kmに240haの広さで管理される日本で最初の国営河川公園でもある。筆者が景観形成などに関わる淀川で公園管理を行う淀川河川管理センターより、大学連携の依頼があり対応することとなった。

寝屋川市にある木屋元地区河川公園の遊具が塗り直しの時期を迎えていたため、環境デザイン専攻の大学院生



下絵をもとに着色作業



淀川河川公園塗装滑り台

3名と共に、遊具の活用を検討した結果、地元の小学生との連携を行うこととした。公園内の5つのコンクリート製滑り台の塗り替えで、地元小学生の絵を本学学生がコラージュし、滑り台に描くものである。夏休み地元の寝屋川市立木屋小学校の児童たちに絵を募集し、その中より選んだ絵のコラージュで5案まとめた。12月15日16日寒空の中、本学院生と河川事務所職員とともに、塗装作業を行なった。途中地元小学生の家族も訪れ、喜びの声を聞いた。今後地元の子供達に親しまれる施設として、さらなる活用が進むことを望むところである。

## 5、大学地域連携の今後に向けて

近年、大学に持ち込まれる連携希望が増加している。美術学部の中でも、こういった連携への取り組みやすさは専攻により様々であるに違いない。環境デザインでは20年近く前より、大学のある西京区の地域活動との連携授業を行なってきた。移転決定後は、崇仁地区の活動との連携を積極的に行っている。本年度も4月以降に取り壊される旧崇仁小学校の記録映像ワークショップを、駅ビル課題の途中で行い、崇仁地区の歴史学習と共に、デザイン科2年生の視点で撮影したショートムービーを残している。今回報告する連携以外にも、京都市の中心部でオープンする「EN HOTEL Kyoto」のインテリアデザインやサービスについて、デザイン科1年生の環境デザイン授業で取り組んだ。3月のオープンでは、その提案のいくつかが実現する予定である。

これからも、地域における「知の現場」「創造の現場」としての役割は大学に益々求められていくに違いない、こういった授業の積み重ねが、地域と大学の双方にとって有意義な活動であることを信じて、今後も積極的に取り組んでいきたいと考える。

以上

